



令和5年度 熊本県障がい者

芸術文化活動普及支援事業 報告書

目次

はじめに	1
地域の現状と課題、めざす成果	2
事業実績	
生の芸術 Art Brut 展覧会 vol.9	3
制作風景動画の作成、韓国との交流事業	4
人材育成研修	5
作家・家族・支援者アンケート「作家の変化、作品の変化、環境の変化」	6
アール・ブリュット移動美術館	7
連携事業（現場体験ワークショップ、県劇バックヤードツアー、くまもと子ども芸術祭）	8
ギャラリーウォール	9
ギャラリーウォール ワークショップ	10
講演・報告の実施 / 作家・作品の調査・発掘	11
相談支援	12
評価・発信、メディア、ネットワークづくり	14
本事業に関わる第三者評価	15
生の芸術 Art Brut 展覧会 vol.9 レビュー（韓国）	16
生の芸術 Art Brut 展覧会 vol.9 出展作家紹介 キュレーター 楠本智郎氏	20
展覧会来観者の感想（抜粋）	36
生の芸術 Art Brut 展覧会 vol.9 おわりに	40
アール・ブリュット パートナーズ熊本・社会福祉法人愛隣園 事務局	41

はじめに

日頃より障害のある人たちの芸術活動支援に、ご理解とご協力を賜り心より感謝申し上げます。この度、令和5年度厚生労働省障害者芸術文化活動普及支援事業報告書を作成しましたので、ご一読頂ければ幸いに存じます。

本年度、熊本県立美術館本館第一展示室で開催された生の芸術 Art Brut 展覧会 vol.9 には、11日間で 3,420 名もの方々にご来場頂きました。別会場の展覧会との相乗効果によるものながら、これだけ多くの方に作品の魅力を発信できたことは大きな意味があることです。また、作家の皆様をはじめ、関係者の方々には多大なご協力を賜りましたことに、この場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございました。

展覧会場内では県内福祉事業所のグッズ販売、作家の実演、制作風景動画の作成、ギャラリートツアー等を実施し、来場者の作家への理解が進みました。また、今回は友情展示として、韓国から3作家6作品を展示しました。初日には、韓国からも 11 名が来熊、作家交流会を開催することができました。芸術を通じた国際交流は有意義で、継続していきたいと考えます。

この他に、他団体と連携協力して展示を行いました。やまがアートや県人権フェスティバルとは3年にわたり連携事業を実施しています。小学校からも展示の要望が増え、裾野が広がっています。また、常設展示会場として運営を開始したギャラリーウォールは地域交流の場となるように、その活用方法を模索し、ワークショップを開催しました。

県内でも、各事業所、各団体が障害のある作家の芸術活動支援を、連携の下で実施しようとする動きが始まっています。熊本県下の事業所・団体が連携して、県内の芸術活動支援がより活性化することを期待しています。

これからも、沢山の方々のご指導を賜り、障害者芸術活動の振興に努めていきたいと存じます。

社会福祉法人 愛隣園
アール・ブリュット パートナース熊本

地域の現状と課題

（現状）

コロナ禍の三年を経て、イベント開催や日常が戻りつつある。芸術活動に関する展示、イベント等にも来場者は増える中、感染防止に努めた様式で開催が求められている。

作家の皆さんは、環境や心身の変化を抱えながらも、変わらず創作（表現活動）し、周囲の家族・支援者も感染対策が標準化して芸術活動支援を続けている。

継続してきた活動が少しずつ実を結び、県内での認知度の高まりとともに、障害のある作家らの芸術活動に関心のある人たちのネットワークが更に拡がりつつある。

（課題）

創作活動を続けるうえで、作品保管方法と場所の確保に関し課題がある。また、作品売買、二次利用等は作家・家族・支援者の目標になってきている。これまで研修会の開催や契約補助等を通し、作家の利益を守る為の支援の大切さ、その意識の浸透と必要な支援を図ってきた。今後も支援者の意識とスキルを高めるための方法を周知していく必要がある。そして、作家が経済活動に参加し、自立に向かえる支援をどのように行うかを課題と捉えている。

事業実施により得られる効果、めざす成果

「障害のある人たちが生きやすい社会になる」という大きな目標に向けて、芸術活動支援を通して、次のような効果を目指していく。

①すぐれた作品に触れる機会や障害のある人々との接点が増えることで、保護的な観念ではなく、平等に基づく正しい理解としての障害観が生まれ、差別の解消につながる。②芸術活動支援の質の高まりとともに、障害のある作家の生み出す作品の価値は正当な評価を受けるものである、という社会の醸成を生み出す。③芸術活動を通して社会経済活動に参加することで、喜びや自立と社会参加が推進できる。

生の芸術 Art Brut 展覧会 vol.9 開催

令和6年1月24日～2月4日

熊本県立美術館 本館 第一展示室

総来場者数 3,420名 アンケート回答数 134件

開会式、ギャラリーツアー、県内8事業所のグッズ販売

県内24名の作家。約160点を展示



制作風景動画の作成

今回の選出作家24名のご家族・支援者に、作家の皆さんの制作中の様子等を撮影して頂きました。作家の皆さんの普段の様子が垣間見えます。この何気ない日常から今回の展覧会に選ばれるような作品が生まれています。



YouTube で配信



会場内で上映

韓国との交流事業

令和6年1月24日(水) 11:45~

生の芸術 Art Brut 展覧会 vol.9 には友情展示として、韓国の3作家6作品を展示しました。展覧会初日に、韓国から11名の来場に合わせて、熊本の作家との交流会を開催しました。

韓国作家 友情展示の経緯

2022年11月 DPI (障害者インターナショナル) 韓国の呼びかけのもと、アジア太平洋知的障害・発達障害者芸術祭が開催され、各国から出展された作品が韓国の国会議事堂に展示されました。DPI 日本会議の平野みどり議長から、本会へ参加要請があり、松本寛庸氏(山鹿市)の『エクセレントスター』を出展し、奨励賞を受賞しました。

このご縁から、本年度熊本の展覧会に韓国の作家も参加したいとの DPI 韓国からの相談により、韓国の支援団体 TOWAJI 推薦の作家の中から3名の作品を「友情展示」として、本展覧会場で展示することになりました。



人材育成研修

地域共生社会づくりに向けて、芸術活動支援をどのように活かしていくのかを考えるための講演会を企画・開催しました。

芸術でつながる地域共生社会づくり講演会

日時:令和5年10月17日 15:00~

会場:くまもと県民交流館パレア 会議室3

講師:DPI(障害者インターナショナル)議長 平野みどり 氏、つなぎ美術館 学芸員 楠本智郎 氏

進行:熊本日日新聞社デジタル編集部 部長(当時) 岩下勉 氏

パネラー:アール・ブリュット パートナース熊本 事務局長 三浦貴子

**芸術でつながる
地域共生社会
づくり講演会**

令和5年10月17日(火) 15:00~
くまもと県民交流館パレア9F 会議室3

15:10~
ダスキン障害者リーダー派遣研修で涙米。県議4期を経て、国内外で活動中
「障害者権利条約が描く多様性に満ちた世界
~芸術活動支援をインクルーシブ社会の扉として~」

DPI (障害者インターナショナル) 日本会議
議長 平野みどり 氏

15:40~
「自分の水曜日のお出来事」を手紙に書いて送ると、「誰かの水曜日」が代わり
に届く、世界で唯一の「郵便局」のプロデュースをはじめ、「住民参加型
アートプロジェクト」を続ける
生の芸術 Art Brut 展覧会 vol.9 キュレーター
つなぎ美術館 学芸員 楠本智郎 氏

16:10~
意見交換
進行:熊本日日新聞社デジタル編集部 部長(当時) 岩下 勉 氏
登壇者: DPI日本会議 議長 平野みどり氏
つなぎ美術館 学芸員 楠本智郎 氏
アール・ブリュット パートナース熊本 事務局長 三浦貴子

2024.1.24~2.4
生の芸術 Art Brut 展覧会 vol.9
熊本県立美術館本館 開催
主催:アール・ブリュット パートナース熊本

参加希望者はMail又はFaxにて
お名前、ご所属、ご連絡先をお送りください
お申込み先
アール・ブリュット パートナース熊本 事務局(豪徳館)
Mail:sailinkan@naga.jp Fax:0968-43-2793



参加者の声

○平野さんの話を聞いて、海外から見た日本の制度上足りないところも分かり、インクルーシブ社会の実現に何が出来るのか考えたいと思いました。

○楠本さんの話では、いかに地域に入って、巻き込んで企画していくのか分かりました。より地域の特性、法人に出来ることを考えたいと思います。

○“芸術はインフラ”という言葉はとても響きました。

作家・家族・支援者アンケート「作家の変化、作品の変化、環境の変化」

本年度は作家・家族・支援者に「生の芸術 Art Brut 展覧会」「アール・ブリュット移動美術館」に出展されたことで変化は生まれましたか?というアンケートを 2023 年 10 月に実施しました。作家の変化、作品の変化、環境の変化について、抜粋してご紹介します。

○作家の変化

- ・永年コンスタントに描き続けている。美術館で展示されてたくさん見に来てもらえるので嬉しい。選ばれると励みになる。
- ・不登校で、引きこもり生活していた頃の作品が選ばれ、自己肯定感が生まれ、自分に自信が持てるようになったように思えます。現在は、芸術学部のある大学進学に向けて勉強中です。"
- ・作家自身は【選ばれる】という意味がわかっていないので何も変わることはありません。ただ、家族は違います。子どもの作品が展示してもらえるというだけで、親は報われる気がします。1枚の作品が展示されることで、今までの自分の年月が【良かった】と思えます。

○作品の変化

- ・家庭ではカラーペンを使っての作品はまだないということだが、施設では新しい画用紙を準備した際などカラーペンでの作品も描いてくれるようになった。
- ・特になし。以前と同様に好きな時に好きなものを描いております。
- ・絵の中に人物が登場することが少し多くなったようです。

○環境の変化

- ・理解のなかった病院職員が個展に来たり、活動を褒められたり、また個人で応援してくれる人も現れた。
- ・祖父や祖母、おばなど、昨年の展覧会を見に来てくれ良かったねと声をかけてくれ、だいぶ会ってなかった人とのつながりも再び会うことができたり、連絡がきたりした。
- ・職員の意識が変わったと思います。作品については、作品一つ一つに作成日を記載したり、保存方法も考慮するようになりました。作品として扱うことを意識するようになりました。また、多くの利用者の作品をこれまでとは違った観点で観るようになったと思います。
- ・美術館に展示をしていただけた事で、たくさんのお友達や先生方に活動を知ってもらえました。学校で授業中に絵を描いていると「学習のできない子」と思われがちですが、学校の先生方がこれも学習だと認めて下さったおかげで、美術館に絵を飾ってもらえる事が出来ました。
- ・近所の方などが「TV で見たよ」「表彰されたね」と興味をもっていただき、彼のことを知ってくれる人が増えました。

アール・ブリュット移動美術館

- ① 6/5-7/14 熊本機能病院 原画+レプリカ
- ② 10/28-11/3 やまがアートin 鶴城 7名の作家
- ③ 12/5-12/8 鹿北小学校 レプリカ
- ④ 12/10 熊本県人権フェスティバル6名の作家
- ⑤ 12/14-12/22 緑ヶ丘小学校 10名の作家
- ⑥ 1/4-1/19 熊本県庁 レプリカ+展覧会ポスター

観覧者の声

○その人が自発的に描かれた作品に魅力を感じられ、力強さや表現力の豊かさが感じられました。また、たくさんの作品を見れる事を楽しみにしています。

○僕の発想では思いつかないような作品が沢山あって面白かったです。



熊本機能病院



やまがアート



鹿北小学校



熊本県人権フェスティバル



緑ヶ丘小学校



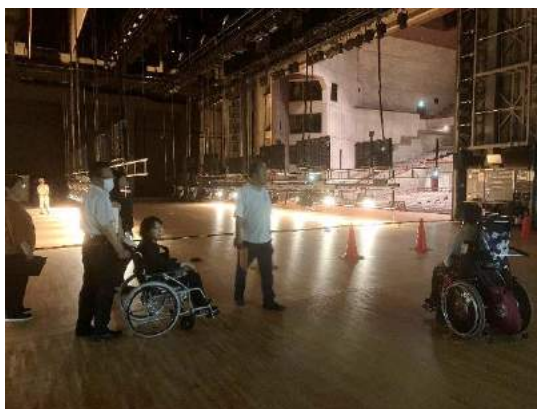
熊本県庁

連携事業

○現場体験ワークショップ

九州障害者アートサポートセンターの要請を受け、熊本県在住の障害当事者（車椅子ユーザー、視覚障害）の調整。障害当事者と熊本県立劇場内を巡り、会場内のバリアについて考えるワークショップの開催協力をしました。

令和5年7月12日 熊本県立劇場



○県劇バックヤードツアー

参加者の調整を行い、県劇スタッフと共に劇場のバックヤードを巡るツアーを実施しました。

令和6年3月18日 熊本県立劇場



○くまもと子ども芸術祭

熊本県文化協会の依頼を受け、本イベントのポスター作品の調整を実施。イベント当日には1日展示の協力も行いました。令和6年3月28日



ギャラリーウォール（山鹿市温泉プラザ3F・地域活動支援センターぴあぴあ内）

4月 1日～ AO-KUMA BRUT	150名
5月 1日～ EGAKU 日々 福山ひろみ 作品展	140名
5月15日～ 愛隣館ダイケア陶芸展	190名
6月 1日～ ゆうあい園 さをり織り展	130名
7月 1日～ 灯籠Tシャツ展	253名
8月 1日～ 北原岳 作品展	150名
9月 1日～ 原山陽祐 作品展	180名
10月 1日～ 中山颯良 作品展	87名
10月16日～ 角田奈穂 未来 二人展	182名
12月 1日～ ゆうあい園 さをり織り展	98名

合計 1,560名



スタッフの声

- 一般の方が沢山ご来場になり、併設する地域活動支援センターや基幹相談支援センターの認知も広まったと思います。
- 様々な展示があるので、その時その時で雰囲気も変わることが楽しみでした。地域活動支援センターの利用者にとって、展示作家との交流は刺激的だったようです。
- 展示開催により、同じ商業ビル内の保育園や高齢者事業所の利用者が立ち寄ってくれるようになり、他の事業所と少し距離が近くなった気がします。
- ワークショップでは、参加者が楽しそうにしている姿が印象的でした。

ギャラリーウォール ワークショップ

○粘土体験ワークショップ(令和5年5月20日)

ギャラリーウォールは展示の場だけではなく、交流の場としての活用を目指しています。2回目となる粘土体験のワークショップは、対象者を地域の子どもに加え、福祉サービス利用児童に広げ、自然な交流を期待しました。



参加者の声

- ・親子で楽しさや喜びを共有できるような体験でした。子ども同士、親同士が繋がれるきっかけにもなった。継続して参加したい。



○岳くんと一緒に作ろう体験会(令和5年8月5日)

作家の岳くんと一緒に、新聞紙とテープを使って好きな動物等を形作る体験会を開催しました。参加した子供たちに、創作活動がより身近に感じられるようになることを目指しました。



参加者の声

- ・岳君の作品は、新聞紙とテープだけで繊細にできていてすごいと思いました。実際に作ってみると難しかったけど、楽しかったです。気付いたら1時間くらい集中していました。

講演・報告の実施

1. 全国身体障害者施設協議会研究大会（2023.7.20-21）G メッセ群馬
「芸術でつながる地域共生社会づくり～アール・ブリュット パートナース熊本の取組～」
アール・ブリュット パートナース熊本 事務局 納富久
2. ギャラリーツアー（1/24～）本展覧会キュレーター 楠本智郎 氏
オンライン配信（1/29～）



全国身体障害者施設協議会研究大会



ギャラリーツアー キュレーター 楠本智郎 氏

作家・作品の調査・発掘

作家・作品訪問調査 50 件
情報提供による作家発掘 13 件



相談支援

これまで芸術活動支援に限定せず、生活面に关わるような相談支援も行ってきたことで、作家・家族との信頼関係の深まりを感じられます。また、作家ごとに芸術活動が広がるに連れて、多様化する芸術活動に関する相談支援も行いました。これからも作家の利益につながるよう、支援を続けていきたいと思ひます。

美術館
スタッフ

展覧会場の物販で扱っていたグッズを、美術館で常設販売したい。作家との調整をお願いしたい。

作家・家族の意向確認・値段や受取日時との連絡調整、グッズの運搬等の仲介を行った。

事務局

医療機関

病院の外来入口にレプリカ作品を飾っておきたい。それに合わせて、期間限定で原画等の展示も行ってほしい。

レプリカの準備と活動内容の説明資料を提供した。また、病院内ギャラリーで原画とレプリカの展示を行った。

事務局

文化協会

文化協会主催のイベントのポスターに作品の利用をしたい。作家の調整をお願いしたい。また、イベント時に展示をお願いしたい。

イベントポスターに登録作家5名の紹介、情報提供、画像提供を行った。また、イベントに合わせて一日展示を行った。

事務局

企業

県下イベントでブースが多数出る。その中で展示ブースをお願いしたい。また、物販等も合わせて行ってほしい。

原画の運搬・展示・撤収を行った。また、物販物も持ち込み、展示中には物販対応も行った。

事務局

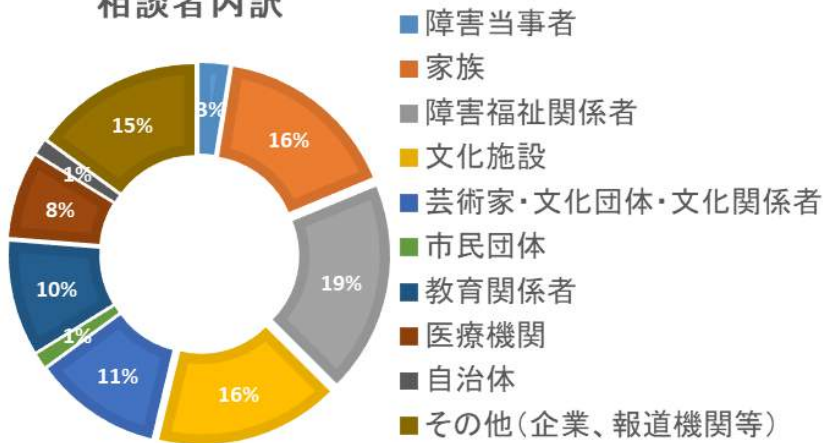
相談支援

連絡調整件数

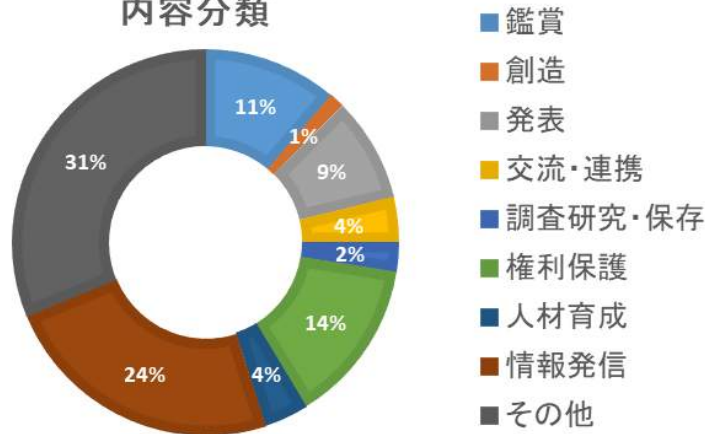
情報提供、日程調整メール、会員メール(情報発信 38件)

相談件数 100件(作家・家族・支援者・企業等)

相談者内訳



内容分類



相談者内訳では、昨年は障害福祉関係者と家族が全体の6割を占めていたが、本年度は企業や報道機関、文化施設、教育関係者などの件数割合が増加している。なかでも文化施設は16%(昨年4%)と増えていて、これらは劇場などからの芸術分野における新たな事業を提案して頂いたことや、情報を通してその他様々なネットワークの繋がりができたことで、それぞれの相談件数が増えてきた。美術分野に留まらず、新たな表現・発表をする機会も増え、今後の多方面における可能性を期待したい。

一方、内容分類に関しては、鑑賞や権利保護などについて多数問い合わせがあり、今後更に作家を評価する機会が増えていき、社会に浸透して行くことも期待できる。同じく情報発信の割合も増え、インターネットを活用した取組が更に加速していくように思われる。

評価・発信

ウェブサイト 本事業に関する記事

投稿数 20件

アクセス数 3,166件



アール・ブリュット パートナース熊本

検索



メディア

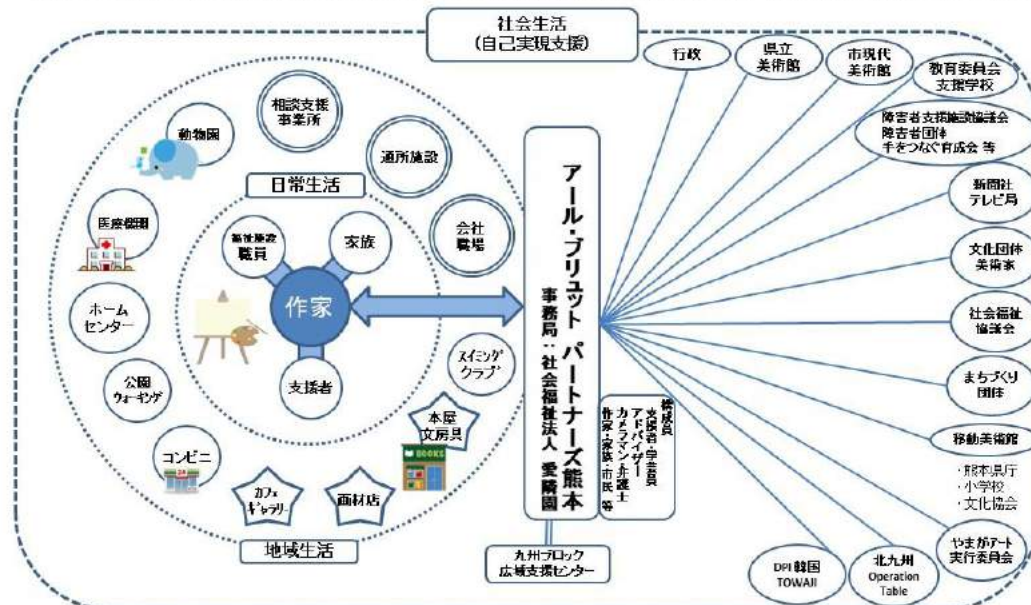
テレビ放送 2回(熊本朝日放送、熊本県民テレビ)

新聞掲載 3回(熊本日日新聞、毎日新聞、朝日新聞)

ネットワークづくり

地域資源の連携ネットワーク型障害者芸術活動支援モデル「熊本方式」2023

☆「熊本方式」とは、作家を中心に、福祉、教育、芸術、企業、行政等が市民団体として連携し、地域に根ざして、障害者芸術活動を振興していくモデルです。作家の家族等も輪に加わり、互いに刺激しあい高めあって行く(交互作用)を目指しています。作家の自立・社会参加と共に、芸術でつながる地域共生社会が目標です。



本事業に関わる第三者評価

県内の方々との意見交換より

- 1 展覧会のキュレーションを担当して頂いた津奈木町のキュレーターより。「アール・ブリュット展のキュレーションは初めてでしたが、アール・ブリュット パートナース熊本が培った経験と並々ならぬ熱意に大いに助けられ、無事に職責を果たすことができました。社会の多様化にともないアール・ブリュット展にも新たな視点やアイデアが求められつつありますが、関係者で課題を共有することによって、さらに充実した取り組みとなるよう努めたいと思います。」
- 2 展覧会ポスター等を担当したデザイナーより。「毎回、展覧会の開会式などをとおして、作家やご家族の表情などから作品を（自分自身を）みてもらう喜びや緊張感を感じ、共有させていただいておりますが、今回は、韓国からの出展にともない、その交流を支えるスタッフの皆様からも、本展参加の喜びや楽しみが、より強く豊かに伝わってきました。」
- 3 展覧会で物販を担当したショップ店員の方より。「会場から『すごい』『はー、へー』など感嘆の声が漏れ聞こえる中、物販を担当。今回は韓国からの友情出演に加え、台湾からお越しのお客様も多く、ときにグローバルな空間が展開されました。感性に直接訴えてくるものは言葉の壁や障がいの有無を超えて理解し和えることを体感。ありがとうございました。」
- 4 展覧会で物販を担当した別のショップ店員の方より。「アートショップのスタッフとして、お客様の感想をお聞きする機会も多く、それをとても楽しみにしていた。もちろん、感じ方は人それぞれ。その中で、最も印象的だったのがアール・ブリュット展を初めてご覧になった方の感想だった。『作家の全身の感覚で打ち込まれた作品に触れると、見る側は、しばらく圧倒され、次に自然と気持ちが浄化される感覚になる。また来ます』。その言葉に、この展覧会に関わった喜びを感じた。」

県外の方々との意見交換より

- 1 展覧会場作りに協力頂いている福岡のインスタレーションアーティストより。「前回まで数年に渡ってコロナ禍の影響を受けた運営になっていましたが、今年度は来場者数にも現れていたように、アフターコロナを感じられるような展覧会になり、そのことがとても印象的で、明るい兆しを感じられて良かったです。」

生の芸術 Art Brut 展覧会 vol.9 レビュー(韓国)

Chon Min jun チョン・ミンジュン

お元気ですか?私は前回熊本県立美術館で開催した第9回ARTBRUT展示会に友情展示作家として参加したチョン・ミンジュンです。

まず、素敵で伝統のある展示会に作家として参加し、私の作品を展示できるようにして下さった主催側に感謝します。

絵を描き始めて1年にならない私が、こんなに大きくて素敵な展示会に、私の作品を他の素晴らしい作家たちの素敵な作品と同じように展示をすることになって、とても良い経験であり、機会があれば私が描いた他の作品も展示をして他の人にも見せたいです。

今回の展示会に参加し、また他の作家たちのすばらしい作品を観覧しながら新しい作品について勉強をする良い機会であり、これを通じて新しいインスピレーションを得ることができる非常に良い経験でした。

他の作家の作品の中で、材料と素材の多様性と表現のユニークさを見るようになり、絵を描き始めたばかりの私としては、今回の経験が大きな財産になりそうです。

絵や作品を通して自分自身を表現し、世界とコミュニケーションをとり、社会のメンバーとして役割を果たすことができる環境が非常に良い点だと考えられ、このような機会を提供し続ける主催側にも非常に感謝をしています。

私を含む他の発達障害者にもこのような経験をする機会がたくさん与えられたいと願っており、継続的な交流行事が行われてほしいと思います。

ART BRUTの展示会が継続的に維持され、さらに発展することを心から応援しています。

안녕하세요? 저는 지난번 구마모토 현립 미술관에서 개최한 제 9 회 ARTBRUT 전시회에 우정전시 작가로 참석한 천민준입니다.

먼저 훌륭하고 전통이 있는 전시회에 작가로 참여해서 제 작품을 전시 할수 있게 해주신 주최 측에 감사드립니다.

그림을 그리기 시작한 지 채 일년이 되지 않는 제가 이렇게 크고 멋진 전시회에 제 작품을 다른 훌륭한 작가들의 멋진 작품들과 같이 전시를 하게 되어 매우 좋은 경험이었고, 기회가 된다면 제가 그린 다른 작품들도 전시를 해서 다른 람들에게도 보여 주고 싶습니다.

이번 전시회에 참가하고, 또 다른 작가님들의 훌륭한 작품을 관람하면서 새로운 작품에 대해서 공부를 할 수 있는 좋은 기회였고 이를 통해 새로운 영감을 얻을 수 있는 매우 좋은 경험이었습니다.

다른 작가님들의 작품들에서 재료와 소재의 다양성과 표현의 독특함을 보게되었고 그림을 그리기 시작 한 지 얼마 되지 않은 저로써는 이번 경험이 큰자산이 될 수 있을 것 같습니다.

그림과 작품을 통해서 자기 자신을 표현하고 세상과 소통하며 사회의 구성원으로서 역할을 할 수 있는 귀 국의 환경이 매우 좋은 점이라고 생각되며, 이런 기회를 계속해서 제공하고 유지하는 주최 측에게도 매우 감사를 드립니다.

저를 포함한 다른 발달 장애인들에게도 이런 경험을 할 수 있는 기회가 많이 주어졌으면 하는 바램이며, 지속적인 교류 행사가 이루어졌으면 합니다.

ART BRUT 전시회가 지속적으로 유지되고 더욱 더 발전 할 수 있기를 진심으로 응원합니다.

生の芸術 Art Brut 展覧会 vol.9 レビュー (韓国)

Kang Sang wook (Kang Won jin' father) 칸·산웁(칸·웁진之父)

熊本県立美術館の友情展示への参加は、私たちの家族に大きな感動を与えました。

真冬が暖かく感じられるほど関係者の方々の丁寧で情熱的な準備に今一度感謝し、日本の作家の方々の真剣で多様な作品に触れながら、彼らの努力に感動しました。

さらに嬉しかったのは、作家の一人である藤岡祐機さんが直接現場で作品を作って韓国人作家や家族たちにプレゼントしてくれたのです。小さくて軽い作品、海を渡って韓国でも多くの人々が彼の作品に共感できる機会を作りたいです。

私の家族は日本から戻ってきて、オマージュのように祐機さんの作品に挑戦してみました。やはり簡単ではなかったけど、スパイラルした細い紙質が、まるで空に向かって飛ぶ鳥の羽のような感じがしました。これが集まり、多くの人に作家の心を伝える大きな翼になることを祈ります。

両国間の交流活動が今後も着実に続くことを願っています。ありがとうございます。

구마모도 현립미술관의 우정전시 초대는 우리 가족에게 커다란 감동을 안겨 주었습니다.

한겨울이 따뜻하게 느껴질 정도로 관계자분들의 세심하고 열정적인 준비에 다시 한번 감사를 드리고, 일본 작가분들의 진지하고 다양한 작품을 접하면서 그분들의 노력에 감동하게 되었습니다.

더욱 기뻐던 것은 작가 중의 한 분인 후지오카 유우키씨가 직접 현장에서 작품을 만들어 한국인 작가와 가족들에게 선물해 준 것입니다. 작고 가벼운 작품이지만 바다 건너 한국에서도 많은 사람들이 그분의 작품에 공감할 수 있는 기회가 있으면 합니다. 우리 가족은 일본에서 돌아와서, 오마주처럼 유우키씨의 작품에 도전해 왔습니다. 역시 쉽지 않았지만, 한올한올 오려진 가느다란 종이실이 마치 하늘을 향해 아오르는 새의 깃털같은 느낌이 들었습니다. 이것이 모여 많은 이들에게 작가의 마음을 전해주는 커다란 날개짓이 되기를 기원합니다.

양국간의 교류 활동이 앞으로도 꾸준히 이어지기를 바랍니다. 감사합니다.

生の芸術 Art Brut 展覧会 vol.9 レビュー (韓国)

Kim Yeon kyeong (Park Sung ho' mother) キム・ヨンギョン(パク・ソンホの母)

お元気ですか？ 第9回 ART BRUT 展示会に友情展示した韓国作家のパク・ソンホの母です。熊本のアール・ブリュット展で最初に思い出すのが、関係者の皆さんのおもてなしでした。外国での展示が初めてだったソンホや私は、正直日本語もできず展示場所も見慣れないので、不安な気持ちが大きかったです。

しかし、私たちを迎えてくださった関係者様が、私たち数人のために通訳も用意してくださり、展示空間も県立美術館という有名な場所に、広い空間まで用意していただき、プレゼントも用意していただき、不安な心を忘れ快適に展示を楽しんできました。ポスターにソンホの名前まであることを聞いて、さらに誇りに思い、ソンホもとても気に入ってました。

展示場で見た熊本アール・ブリュット作家たちの作品のレベルが非常に高く、ソンホはポスターの絵を描いた中満優生さんの作品を気に入っていました。

他にも、素敵な作品のように展示してもらって、光栄で素晴らしい機会を与えてくれたアールブリュットパートナーズ熊本会長と関係者に感謝の気持ちを伝えます。

一生懸命創作して、第10回 ART BRUT 展覧会にまた参加できたら良いと思います。

안녕하세요? 제 9 회 ART BRUT 전시회에 우정 전시했던 한국의 박성호작가엄마입니다. 일본 아르브뤼 전시회를 생각하면 제일 먼저 생각나는 것이 전시관계자분들의 환대였습니다.

외국에서의 전시가 처음이었던 성호나 저는 솔직히 일본어도 못하고 전시장소도 낯설어서 불안한 마음이 컸습니다. 그러나 저희를 맞이해주신 관계자님들이 저희 몇명을 위해 통역사도 준비해주시고 전시공간도 현립미술관이라는 유명한 장소에 넓은 공간까지 마련해 주시고 선물도 준비해주셔서 불안한 마음을 떨치고 편안하게 전시하고 즐기고 올 수 있었습니다.

포스터에 성호 이름까지 있다는 것을 듣고 나니 더 자랑스럽고 성호도 무척 좋아했습니다.

전시장에서 봤던 구마모토 아르브뤼 작가님들의 작품들이 수준이 매우 높았으며 히 성호는 포스터 그림을 그린 나카미즈 유의 작품이 맘에 든다 하였습니다.

그 외에도 멋진 작품들과 같이 전시해서 영광이었고 훌륭한 기회를 주신 아르브뤼 파트너스 구마모토 회장님 및 관계자들께 감사의 마음을 전합니다.

열심히 작업해서 제 10 회 ART BRUT 전시회에 또 참가하고 싶습니다.

生の芸術 Art Brut 展覧会 vol.9 レビュー (韓国)

Jeong Jeong ae(Han Jeong min's mother) チョン・ジョンエ(ハン・ジョンミンの母)

熊本アール・ブリュット展に作品を出品する作家たちと共に県立美術館を訪問しました。美術館への道には広い公園と大きな木がありましたが、まるで私たちを歓迎してくれるようでした。

美術館に到着するとすぐに担当者が嬉しい表情で私たちを迎えてくれ、広い展示室で日本の作家たちの作品を準備している様子を見ました。展示業者たちは国宝級の美術品を扱う方々と紹介を受けたので感動的でした。

美術館館長の開会挨拶で展示会が始まり、日本との国際交流が始まる瞬間でした。韓国の作家たちと日本の作家たちが一緒に写真を撮って各作品を振り返りました。

作家たちの顔には不安や自信、幸せがいっぱいのハッピー笑いが咲きました。

幸せなアール・ブリュット展に出席し、このような機会が毎年行われることができればとの願いを日本の担当者に伝えました。

韓国の作家が幸せな展示会に参加できるように招待していただきありがとうございます。

일본 아르브르 전시회에 작품을 출품하는 작가들과 함께 현립미술관을 방문했습니다. 미술관으로 가는 길에 넓은 공원과 큰 나무가 있었는데, 마치 우리를 환영해주는 것 같았습니다.

미술관에 도착하자마자 담당자님께서 기쁜 표정으로 우리를 맞이해주셨고, 넓은 전시실에서 일본 작가들의 작품들을 준비 중인 모습을 보았습니다. 담당자님들은 국보급 유물을 다루는 분들이라고 소개를 받으니 감동적이었습니다.

담당자님께서 일본 작가들의 작품을 하나씩 설명해주셨는데, 작가들의 작품 스토리 하나하나가 작가들을 더 잘 이해할 수 있는 소중한 시간이었습니다.

미술관 관장님의 개회사로 전시회가 시작되었고, 일본과의 국제 교류가 시작되는 순간이었습니다.

한국 작가들과 일본 작가들이 함께 사진을 찍고 각 작품을 돌아보았습니다.

작가들의 얼굴에는 뿌듯함과 자신감, 행복함이 가득한 함박웃음이 피어났습니다.

행복한 아르브르 전시회에 참석하면서, 이런 기회가 매년 진행될 수 있으면 좋겠다는 바람을 일본 담당자님께 전했습니다.

한국 작가들이 행복한 전시회에 함께할 수 있도록 초대해 주셔서 감사합니다.



「アール・ブリュット (Art Brut)」は、フランスの画家ジャン・デュビュッフェによって提唱された概念で、正規の美術教育を受けていない人が生み出した独創的な表現を意味し、「生の芸術」とも訳されます。現在は障害のある人による造形表現を指すことが多くなっているものの、西洋美術の価値観にとらわれず、作為のない個性や自発性に基いた創意に価値を見いだそうとしたジャン・デュビュッフェの根本的理念に立ち返れば、「アール・ブリュット」は障害の有無にかかわらず、あらゆる人々をつなぐ架け橋ともなるはずです。アール・ブリュットパートナーズ熊本は、この理念と数々の作品に感銘を受けた有志が、熊本に潜在する人材の発掘と、その創作活動の支援などを目的に2014年に設立しました。9回目となる本展では24名の在熊の表現者の新作を中心に展示します。皆様とともに、障壁のない共生社会の実現に向けて歩みを進めることができれば幸いです。

アール・ブリュット パートナーズ熊本

“Art Brut” is the art concept proposed by French painter Jean Dubuffet and means an original expression created by a person without a formal art education, and is also translated as "raw art". Although it is now more often referred to as plastic expression by people with disabilities, if we go back to the fundamental philosophy of Jean Dubuffet, who tried to find value in creativity based on individuality and spontaneity without artificiality, without being bound by the values of Western art.

"Art Brut" should also be a bridge among all people, regardless of disability.

Art Brut Partners Kumamoto was established in 2014 by volunteers who were impressed by this philosophy and numerous works, with the aim of discovering potential artist in Kumamoto and supporting their creative activities. The exhibition this time, which will be held for the ninth time, will focus on new works by 24 artists in Kumamoto. It would be happy and highly appreciated if we could move forward toward the realization of fully inclusive society without barriers, with your cooperation and participation.

Art Brut Partners Kumamoto

'아르브뤼트(Art Brut)'는 프랑스화가장뒤뷔페가제창한개념으로, 정규미술교육을받지않은 사람이만들어낸독창적인표현을의미하며 '생예술' 다시번역됩니다. 현재는장애가있는사람에 의한조형표현을가리키는일이많아지고있지만, 서양미술의가치관에얽매이지않고, 작위가없는 개성이나자발성에근거한창의에가치를발견했다고한장뒤뷔페의근본적인철학으로되돌아가면 '엘브뤼트'는장애의유무에관계없이모든사람들을연결하는다리가될것입니다. 아르브뤼트 파트너즈구마모토는이이념과수많은작품에감명을받은유지가구마모토에잠재하는인재의 발굴과그창작활동의지원등을목적으로 2014 년에설립했습니다. 9 회째가되는본전에서는 24 명의재품의표현자의신작을중심으로전시합니다. 여러분과함께장벽이없는공생사회의 실현을향해행보를진행할수있습니다.다행입니다.

엘브뤼트파트너스구마모토

ごあいさつ

「生の芸術 Art Brut 展覧会 vol.9」にお運びいただきありがとうございます。

熊本に生き、熊本で創作を続ける 24 人の作品をご覧ください。すでにおなじみの作家から、初めて目にする個性まで 160 点以上。これまでと同様にさまざまな表現に出会う喜びを味わっていただけたと思います。また今回は韓国から 3 人の作家が友情出品しています。人と人とのつながりが生んだ初めての国際交流です。

世界を見渡せば、この瞬間にも無数の悲しみや絶望、そして怒りが生まれています。しかしこの会場では違います。人々を引き裂こうとする力ではなく、人を包み込み、つながろうとする「希望」を感じることができるでしょう。さあ心を開いて「誰に教わったわけでもない、熊本が育んだ魂の表現」をお楽しみください。

主催：アール・ブリュット パートナーズ熊本会長 西島喜義

共催：熊本県立美術館/熊本県教育委員会 社会福祉法人愛隣園

キュレーター：楠本智郎

Greeting

Thank you for coming to the "Raw Art Art Brut Exhibition vol.9". You will be able to see the works of 24 people who live and continue to create in Kumamoto. More than 160 works, from well-known authors to unique personalities you'll be seeing for the first time. We hope that you will enjoy the same joy of encountering various expressions as before. Also, this time, three artists from Korea are exhibiting friendship works. This is the first international exchange born of connections between people. If you look around the world, you can see that countless amounts of sadness, despair, and anger are occurring even at this very moment. But this venue is different. Rather than a force that tries to tear people apart, you will feel a "hope" that embraces and connects people. Please open your heart and enjoy the expression of the soul that Kumamoto has cultivated, which no one taught you.

Sponsor: Art Brut Partners Kumamoto Chairman Kiyoshi Nishijima

Co-sponsored by: Kumamoto Prefectural Museum of Art/

Kumamoto Prefectural Board of Education

Social Welfare Corporation Airinen

Curator: Tomoo Kusumoto

인사말

원시예술 Art Brut 전시회 vol.9 에운반해 주셔서감사합니다.구마모토에살고,
구마모토에서창작을계속하는 24 명의작품을 보겠습니다. 이미익숙한작가부터처음으로 보는개성까지
160 점이상. 지금까지와같이 다양한표현을만나는기쁨을맛볼수있다고 생각합니다. 또이번에는한국에서
3 명의 작가가우정출품하고있습니다. 사람과 사람과의연결이낳은최초의
국제교류입니다.세상을바라보면이순간에도 무수한슬픔과절망, 그리고분노가 태어납니다.
그러나이장소에서는다릅니다. 사람들을찢으려는힘이아니라사람을감싸고 연결하려는
"희망"을느낄수있습니다. 자, 마음을열고 "누구에게가르친것도아닌
구마모토가자란영혼의표현"을즐겨주세요.

주최 : 얼브뤼트파트너즈

구마모토회장니시지마 키요시공동개최:구마모토현립미술관/구마모

토현교육위원회 사회복지법인

애인원큐레이터 : 구스모토토모오

荒木 聖憲
Araki Minori
1994年 玉名市



テレビで見た放浪の画家・山下清に感銘を受け、中学生の頃に独学で色紙を使ったちぎり絵を始めました。油絵で下地の上に絵の具を重ねるように、ちぎった色紙を重ねてゆく技法は山下清に学んだそうですが、自身でも制作方法の探究を続けており、紙を細くねじって作った紙縷は欠くことのできない画材のひとつとなっています。《熊本県庁いちよう並木》は、熊本県民なら誰もが知る場所です。秋の時間を過ごす人々のささやかな日常をみごとに映し出しています。

Araki was impressed by the wandering painter Kiyoshi Yamashita, whom he saw on TV, and began learning “chigiri paintings” by himself using colored paper when he was in junior high school. It is said that he learned from Kiyoshi Yamashita, the technique of layering torn pieces of colored paper one on top of the other, similar to the way paint is layered on top of a base in oil painting. He has continued to explore his own production styles and methods, and has created paper strands made by twisting thin pieces of paper. They have become one of the indispensable and essential art supplies. His art work of “Kumamoto Prefectural Office Ginkgo Trees” beautifully reflects the daily lives of people who spend the deepening autumn time in a place that is well known and familiar to Kumamoto residents.

텔레비전에서 본 방랑의 화가 야마시타 키요시에 감명을 받아 중학생 때에 독학으로 색종이를 사용해 그림을 시작했습니다. 유화로 기초 위에 페인트를 겹치도록 찢어진 색종이를 거듭해 가는 기법은 야마시타 키요시에게 배웠다고 합니다만, 스스로도 제작 방법의 탐구를 계속하고 있어, 종이를 가늘게 비틀어 만든 종이 얼룩은 빠뜨릴 수 없는 화재의 하나가 되고 있습니다。《구마모토현청 이초 가로수》는, 구마모토현민이라면 누구나가 아는 장소에서 깊어지는 가을의 시간을 보내는 사람들의 작은 일상을 보기 좋게 비추고 있습니다。

植田 正美
Ueda Masami
1964年 玉名市



デイケアに通い、読書や作詞を楽しみながら、ペンや油絵の具を使った絵画の制作を続け、公募展での入選も果たしてきました。しかし、制作する作品の点数が増えてきたため、より手頃な価格の画材を探すとともに完成した作品の収納スペースを確保することを考え、2023 切り絵を始めました。ペンや油絵の具を使った作品よりも具体性を帯びていますが、優しさと力強さを備えた色遣いと単純化された構図によって、これまでと変わらない個性を発揮しています。

Ueda Born in 1964 Lives in Tamana City.

He has attended day care, enjoyed reading and writing lyrics, and continued to create paintings using pen and oil paint. His arts have been selected for public exhibitions. However, as his art works increased, he started paper-cutting in 2023, looking for more affordable art materials and looking for space to store his completed works. Although they are more concrete than works made with pen or oil paint, his paper-cutting works still exhibit the same individuality as before through their gentle and powerful coloring and simplified compositions.

데이케어에 다니고, 독서나 작사를 즐기면서, 펜이나 유화구를 사용한 회화의 제작을 계속해, 공모전에서의 입선도 완수해왔습니다。그러나, 제작하는 작품의 점수가 늘어나 왔기 때문에, 보다 저렴한 가격의 화재를 찾는 것과 동시에 완성된 작품의 수납 스페이스를 확보하는 것을 생각해, 2023년에 잘라 그림을 시작했습니다。펜이나 유화를 사용한 작품보다 구체성을 띠고 있습니다만, 상냥함과 힘을 갖춰선 감각과 단순화된 구도에 의해, 지금까지와 변함없는 개성을 발휘하고 있습니다。

内野 貴信
Uchino Takanobu
1974年 熊本市



Uchino has created many colorful works using acrylic paint on cardboards. The colorful clay dolls have humor and rich expressions in a folk atmosphere, and are one of the works that convey his unique worldview. In addition, his works drawn on everyday objects such as trash can lids and fans show that his creative activities are connected to daily life.

段ボールや厚紙を支持体として、アクリル絵の具による彩り鮮やかな作品を数多く制作してきました。粘土で作ったカラフルな人形は、土俗的な雰囲気の中にユーモアと豊かな表情があり、作家ならではの世界観が伝わる作品のひとつです。また、ゴミ箱の蓋やうちわなど日用品に描いた作品は、創作活動が日々の暮らしとともにあることを示しています。

골판지나 판지를 지지체로 하여 아크릴 페인트에 의한 색채 생생한 작품을 많이 제작해 왔습니다. 점토로 만든 화려한 인형은, 토속적인 분위기 속에 유머와 풍부한 표정이 있어, 작가 특유의 세계관이 전해지는 작품의 하나입니다. 또한 쓰레기통의 뚜껑이나 부채 등 일용품에 그린 작품은 창작 활동이 나날의 생활과 함께 있음을 보여줍니다.

大林健吾
Oobayashi Kengo
1987年 菊池市



Oobayashi draws a number of similar intersecting lines and his arts create an exquisite balance between the “figure” seen as a shape in perceptual phenomena and the “ground” in the background, creating unique abstract works. The title is a name of the subject prepared in front of you, but it does not match the actual color or shape drawn, and by capturing the subject, he might freely but faithfully create the image that appears inside himself.

同じような交差する線をいくつも描き連ねることで、知覚現象において形として見られる「図」とそれ以外の背景の「地」を絶妙なバランスでつくりあげ、他に類を見ない抽象的な作品を生み出してきました。タイトルはあらかじめ用意された目の前にある題材の名称ですが、実際に描かれた色や形とは一致しておらず、対象を捉えることで自身の内面に浮かぶイメージを自由に、しかし忠実に描いているのかもしれない。

비슷한 교차하는 선을 여러 개 그려 연속으로 지각 현상에서 형태로 보이는 '그림'과 그 이외의 배경의 '땅'을 절묘한 밸런스로 만들어 주며, 그 밖에 유례없는 추상 작품을 만들어 왔습니다. 타이틀은 미리 준비된 눈앞에 있는 소재의 명칭이지만, 실제로 그려진 색이나 형태와는 일치하지 않고, 대상을 포착하는 것으로 자신의 내면에 떠오르는 이미지를 자유롭게, 그러나 충실 에 그려 있을지도 모릅니다.

小田 彩映子
Oda Saeko
1984年 宇土市



Oda has mainly drawn scenes from sports competitions such as snowboarding and speed skating, but as a result of thinking that she decided to draw what she really like and since 2023, she has started drawing bird's-eye view of landscapes of the near future. She also started drawing "Playing Hands," which depicts the artist's hands with precise observation and delicate touches. It is metaphorical landscape that illuminates her own inner world, and could also be called her self-portrait that attempts self-reflection.

これまではスノーボードやスピードスケートなどスポーツ競技の一場面を中心に描いていましたが、より自分の好きなものを作品化してみようと考えた結果、2023年から作家自身が望む近未来を俯瞰したような風景などを描くようになりました。また、作家の手を精緻な観察と繊細なタッチで描いた《遊ぶ手》は、自身の内面を照らした比喩的な風景であるとともに自己省察を試みる自画像ともいえる作品です。

지금까지는 스노우 보드나 스피드 스케이트 등 스포츠 경기의 한 장면을 중심으로 그렸습니다만, 보다 자신이 좋아하는 것을 작품화해 보려고 생각한 결과, 2023년부터 작가 자신이 원하는 근미래를 부감했다 같은 풍경 등을 그리게 되었습니다. 또, 작가의 손을 정밀한 관찰과 섬세한 터치로 그린《놀이 손》은, 자신의 내면을 비추는 비유적인 풍경인 동시에 자기성찰을 시도하는 자화상이라고도 할 수 있는 작품입니다.

北原 岳
Kitahara Gaku
2012年 山鹿市



Using newspapers and cellophane tapes, Kitahara carefully creates creatures that we encounter on various occasions, utilizing his accumulated knowledge and images in his mind. Sometimes he pastes colored paper on drawing papers, but sometimes he can also create dynamic works even with newspapers with his high skills of observation that capture the detailed features of the subject in a formative manner, and he also fully understand the characteristics of the material of newspaper. In addition to real animals, he sometimes vividly creates even imaginary creatures that appear in fantasy stories. His imagination is really amazing.

さまざまな機会に出会う生き物を、蓄えた知識と頭の中に残るイメージで新聞紙とセロハンテープを使って丁寧に作りあげてゆきます。表面に色紙を貼ることもありますが、新聞紙のままでも躍動感ある作品を生み出せるのは、対象の細かな特徴を造形的にしっかり捉える観察力に長け、素材である新聞紙の特性を十分に理解しているからでしょう。実在する動物だけではなく、空想の物語に登場する生き物をよりリアルに制作することもあり、その想像力には目を見張るものがあります。

다양한 기회를 만나는 생물을 축적한 지식과 머리 속에 남는 이미지로 신문지와 셀로판 테이프를 사용하여 정성스럽게 만들어 갑니다. 표면에 색지를 붙일 수도 있지만, 신문지 그대로도 역동감 있는 작품을 만들어낼 수 있는 것은, 대상의 섬세한 특징을 조형적으로 확실히 파악하는 관찰력에 뛰어나 소재인 신문지의 특성을 충분히 이해해 그러니까요. 실재하는 동물 뿐만이 아니라, 공상의 이야기에 등장하는 생물을 보다 리얼하게 제작하는 일도 있어, 그 상상력에는 눈을 바라보는 것이 있습니다.

桑原 凜
kuwahara Rin
2000年 熊本市



12歳違いの妹がひらがなを練習するようすを見たことをきっかけに、ひらがなのような文字や線で画用紙やノートの紙面を埋め尽くすようになりました。さらに妹が図工で絵を描きだすと作家自身も色を意識するようになったそうです。さまざまな色のペンを使うときもあれば黒い鉛筆だけのときもありますが、画面は直線やカギ型の面によって構成されることが多く、制作における作家ならではの法則があるようです。

Kuwahara started filling the pages of his drawing paper and notebooks with hiragana-like letters and lines, after watching his 12 years younger sister practicing hiragana letters. Furthermore when his younger sister started drawing pictures, the artist became more conscious of color. Sometimes he uses pens of various colors, sometimes just black pencil, and his paintings are often composed of straight lines or key-shaped surfaces, and it seems that he has his own unique rules for creating his works.

12세 차이의 여동생이 히라가나를 연습하는 모습을 본 것을 계기로, 히라가나와 같은 문자나 선으로 화용지나 노트의 지면을 메우게 되었습니다. 한층 더 여동생이 도공으로 그림을 그리면 작가 자신도 색을 의식하게 되었다고 합니다. 다양한 색의 펜을 사용할 때도 있고 검은 연필만 있을 때도 있습니다만, 화면은 직선이나 열쇠형의 면에 의해 구성되는 것이 많아, 제작에 있어서의 작가만이 가능한 법칙이 있는 것 같습니다.

後藤 歩
Goto Ayumi
1976年 菊池市



すべての面を線に置き換え水性ペンとクレヨンで描き続けています。対象の描写のみならず、主題と背景の関係にも気を配りながら試行錯誤を重ねてきたことが、結果として画面構成がポイントとなる静物画において、平面的な作品であるにもかかわらずオリジナリティを生み出しています。

Goto has continued to replace all surfaces with lines and draw them with water-based pens and crayons. Through repeated trial and error, she has paid attention not only to the depiction of the subject but also the relationship between the subject and the background. Consequently, in her work of static paintings in which composition is the key point, her paintings produce her originality although they are two-dimensional work.

모든면을 선으로 바꾸는 수성 펜과 크레용으로 계속 그림니다. 대상의 묘사뿐만 아니라 주제와 배경의 관계에도 신경을 쓰면서 시행착오를 거듭해 온 것이 결과적으로 화면 구성이 포인트가 되는 정물화에 있어서 평면적인 작품임에도 불구하고 독창성을 낳고 있습니다.

駒田幸之介
Komada Konosuke
1989年 熊本市



Komada has created the shapes by overlapping the lines and curves drawn many times on the drawing paper with ballpoint pens, markers, crayons, etc., adding depth and length on the screen. While he is drawing lines endlessly toward the construction of an image that would exist only within himself, the family members remove the drawing paper from the sketchbook at the perfect timing and frame it. These works have been created and completed through a collaborative effort.

ボールペンやマーカーやクレヨンなどで画用紙に何度も引かれた直線や曲線が重なることで形がつくられ、深みが増し、画面に奥行きが生まれています。作家が自身の内面にのみ存在するであろうイメージの構築に向けて延々と線を引き続ける中、家族が絶妙なタイミングでスケッチブックから画用紙を取り外して額に収めるといふ、共同作業によってこれらの作品は完成に至ります。

볼펜이나 마커나 크레용 등으로 화지에 몇번이나 그려진 직선이나 곡선이 겹치는 것으로 형태가 만들어져, 깊이가 늘어나, 화면에 깊이가 태어나고 있습니다. 작가가 자신의 내면에만 존재할 이미지의 구축을 향해 연장선을 계속 끌고 있는 가운데, 가족이 절묘한 타이밍에 스케치북에서 화지를 떼어내 이마에 담는 공동작업에 의해 이러한 작품은 완성에 이른다.

寺本 澄子
Teramoto Sumiko
1955年 熊本市



Teramoto says the faces drawn with colored pencils and ballpoint pens filled over the paper are her "friends." The outline, eyes, nose, mouth, etc. are drawn using only simple lines, but the sizes differ and the expressions vary. She says that this is the only thing she can draw, and continues to create, even though she sometimes becomes hesitant, and her feelings at each time may be reflected in the slight differences and color changes in those faces.

画面いっぱい色鉛筆やボールペンで描かれているいくつかの顔は、作家の「お友達」だそうです。シンプルな線だけで輪郭、目、鼻、口などが描かれていますが大きさは変化しており表情もさまざまです。自分にはこれしか描けないと言い、時には迷いを見せながらも制作を続けており、その時の気持ちが顔の僅かな違いや色彩の変化となって表れているのかもしれません。

화면 가득 색연필이나 볼펜으로 그려져있는 몇 가지 얼굴은 작가의 "친구"라고합니다. 심플한 선만으로 윤곽, 눈, 코, 입 등이 그려져 있습니다만 크기는 변화하고 있어 표정도 다양합니다. 자신에게는 이것 밖에 그릴 수 없다고 말해, 때로는 망설임을 보이면서도 제작을 계속하고 있어, 그 때의 기분이 얼굴의 약간의 차이나 색채의 변화가 되어 나타나고 있을지도 모릅니다.

中満 優生
Nakamitsu Yuu
2001年 山鹿市



By carefully filling in a number of black-edged patterns with various colored pens, Nakamitsu creates lively and vivid arts. On the other side of each page, he put the papers with his words what he felt and what he asked herself. She has also challenged to create new works by combining four pieces of colored paper into a single work. "You and Me in the Mirage" is used as the main visual art for the poster of this exhibition. She also utilizes SNS to get more people to see her work.

黒くふち取ったいくつもの模様の中をさまざまな色のペンで丁寧に塗りつぶすことで、生命感に満ちた動きのある画面を作り出しており、裏面には制作時の感想や自身への問いかけでもある言葉を綴った紙が貼られています。4枚の色紙を組み合わせて一つの作品とする新たなアイデアを取り入れるなど意欲的に制作を続けています。《蜃気楼の中の僕と君》は本展のポスターのメインビジュアルにも採用されました。より多くの人に作品を見てもらうために SNS も活用しています。

검게 폭 분 몇 가지 모양 속을 다양한 색의 펜으로 정중하게 채우는 것으로, 생명감이 가득한 움직임이 있는 화면을 만들어 내고 있어 뒷면에는 제작시의 감상이나 자신에게 질문이기도 하다 말을 쓴 종이가 붙어 있습니다. 4 장의 색지를 조합해 하나의 작품으로 하는 새로운 아이디어를 도입하는 등 의욕적으로 제작을 계속하고 있습니다. 《신기루 안의 나와 너》는 본전의 포스터의 메인 비주얼에도 채용되었습니다. 더 많은 사람들에게 작품을 보도록 SNS 도 활용하고 있습니다.

中山 颯良
Nakayama Sora
2002年 山鹿市



Since Nakayama was in the second grade of elementary school, he has been drawing many humorous animals with a unique color scheme using permanent markers. At first glance, the lines appear to be flat, but the use of various color markers gives the work a sense of three-dimensionality and dynamism. His unique and charming works were used in the design of T-shirts, and the exhibition of his works was held at the library in his hometown.

小学校2年生のときから油性マジックを使った独特な配色でユーモアあふれるたくさんの動物を描き続けてきました。一見すると描線は平面的ですが、色遣いを工夫することで立体感と躍動感が作品に生まれています。個性的で愛嬌のある作品はTシャツのデザインにも採用され、出身地の図書館では作品展も開催されました。

초등학교 2 학년 때부터 유성 매직을 사용한 독특한 배색으로 유머 넘치는 많은 동물을 계속 그려 왔습니다. 언뜻 보면 묘선은 평면적이지만, 색채를 궁리하는 것으로 입체감과 역동감이 작품에 태어나고 있습니다. 개성적이고 애교가 있는 작품은 T 셔츠의 디자인에도 채용되어 출신지의 도서관에서는 작품전도 개최되었습니다.

野尻三正
Nojiri Mitsumasa
1947年 山鹿市



The creatures and plants of Nojiri's works are carefully drawn with colored pencils in high density, filling the entire screen. Continuous patterns and overlapping lines give his works a primitive atmosphere and sense of rhythm. In addition, with detailed observation, you can get a glimpse of the story that is connected to the title of each work, stimulating the imagination of the viewer

画面いっぱい高い密度で生き物や植物を丁寧に色鉛筆で描いています。連続する文様や重ねられた線が作品に原始的な雰囲気とリズム感をもたらしています。また、細部を観察するとそれぞれの作品タイトルにも通じる物語をうかがい知ることができ、見る者の想像力をかきたてます。

화면 가득 높은 밀도로 생물과 식물을 정중하게 색연필로 그립니다. 연속적인 문양과 겹쳐진 선이 작품에 원시적인 분위기와 리듬감을 가져다줍니다. 또, 세부를 관찰하면 각각의 작품 타이틀에도 통하는 이야기를 엿볼 수 있어, 보는 사람의 상상력을 자아냅니다.

濱崎文明
Hamasaki Fumiaki
1952年 熊本市



Hamasaki depicts the city of Kumamoto, where he has lived for many years. From a bird's-eye view based on his own memories, his arts seemed to contain many hidden stories of his life. "From Ulsan Town to Daniyama Area" is a panoramic depiction of the area that still retains the vestiges and atmosphere of Kumamoto Castle town, where many residents of Kumamoto have once visited.

長年暮らしてきた熊本の街を自身の記憶を頼りに俯瞰的な視点で描いており、作家のライフストーリーとも言える、いくつもの物語が潜在しています。《蔚山町から段山方面》は、熊本県民の多くが一度は訪ねたことがある熊本の城下町の面影が残る一帯をパノラマ風に描いた作品です。

오랜 세월 살아온 구마모토의 거리를 자신의 기억을 의지해 부감적인 시점으로 그려 있어, 작가의 라이프 히스토리라고도 말할 수 있는 몇 가지 이야기가 잠재되어 있습니다. 《울산초에서 단산 방면》은 구마모토 현민의 대부분이 한번은 방문한 적이 있는 구마모토의 성시의 모습이 남는 일대를 파노라마풍으로 그린 작품입니다.

平山 由美
Hirayama Yumi
1961年 菊池市



Hirayama draws creatures such as animals and fish in unique shapes with unique color schemes, keeping in her mind the background of the screen. Although the details of the objects drawn referencing minutely illustrated books are simplified and flat, each work is full of expression and her unique sense of humor.

動物や魚などの生き物をデフォルメした個性的なフォルムと独特な配色で画面の背景を意識しながら描いています。緻密に描かれた図鑑などを参考にして描いた対象のディテールは単純化され平面的ですが、いずれの作品も表情があり特有のユーモアにあふれています。

동물이나 물고기 등의 생물을 디포르메한 개성적인 포름과 독특한 배색으로 화면의 배경을 의식하면서 그려 있습니다. 치밀하게 그려진 도감 등을 참고로 하여 그린 대상의 디테일은 단순화되어 평면적입니다만, 어느 작품도 표정이 있어 특유의 유머에 넘치고 있습니다.

藤岡 祐機
Fujioka Yuuki
1993年 熊本市



Fujioka has been creating delicate works using scissors since he was in elementary school, and the thin cuts, less than 0.1 mm in width, create the shapes that look like living things combining with the elasticity of the paper. The selection of paper quality, color, shape, and incision spacing are all based on the knowledge, experience, and sculptural sense that only the artist has. His arts were exhibited as follows:

- "ATTITUDE2002" (2002) exhibited at Museum of Contemporary Art, Kumamoto
- "This is amazing" (2015), The Museum of Modern Art, Saitama
- "From Here 3" (2019), The National Art Center, Tokyo
- "Material Witness" (2023), was exhibited at The American Folk Art Museums.

小学生の頃からはさみを使って繊細な作品をつくり続けており、0.1ミリに満たない細い幅の切り込みは紙の弾性と相まってまるで生き物のような動きのある造形を生み出しています。紙の質、色、形の選択、切り込みの間隔の決定など、すべては作家しか知り得ない知識と経験と造形感覚に基づいています。「ATTITUDE2002」(2002) 熊本市現代美術館、「すごいぞこれは」(2015) 埼玉県立近代美術館、「ここから3」(2019) 国立新美術館、「Material Witness」(2023) アメリカン・フォーク・アート・ミュージアムなどに出品。

초등학생 때부터 가위를 사용하여 섬세한 작품을 계속 만들고 있으며, 0.1 밀리에 미치지 않는 가는 폭의 노치는 종이의 탄성과 함께 마치 생물과 같은 움직임이 있는 조형을 만들어 내고 있습니다. 종이의 질, 색, 모양의 선택, 절단 간격의 결정 등 모든 것은 작가들만 알 수 있는 지식과 경험과 조형 감각에 기초한다. 「ATTITUDE2002」(2002) 구마모토시 현대 미술관, 「대단해 이것은」(2015) 사이타마 현립 근대 미술관, 「여기로부터 3」(2019) 국립 신 미술관, 「Material Witness」(2023) 아메리칸 포크 아트 뮤지엄 등에 출품.

本田 美奈子
Honda Minako
1956年 熊本市



子供向けの図鑑を参考に作品を描くことが多かったが、本展で展示しているのは九州を旅行したときの記憶に基づいて描かれた連作で、訪れた土地と関係のある言葉が時計の図案とともに添えられています。四角や丸く塗り分けられた面で構成されたパッチワークのような画面が特徴です。

Many of Honda's works had drawn based on illustrated books for children, but the works displayed on this exhibition are a series of paintings based on her memories of traveling around Kyushu. The words with her works are related with the places she visited and accompanied by a clock design. Her works are characterized by a patchwork-like screen made up of painted squares and circles.

어린이용 도감을 참고로 작품을 그리는 경우가 많았지만, 본전에서 전시하고 있는 것은 규슈를 여행했을 때의 기억에 근거해 그려진 연작으로, 방문한 토지와 관계가 있는 말이 시계 도안과 함께 붙어 있습니다. 사각형이나 둥글게 칠해진 면으로 구성된 패치워크와 같은 화면이 특징입니다.

曲梶 智恵美
Magarikaji Chiemi
1981年 熊本市



さまざまな素材や写真を用いたコラージュ作品の制作を得意とし、編み物など手芸の技法も積極的に取り入れ、立体的で物語性のある作品をつくり続けてきました。《遊ぶ》は月と太陽が遊ぶようすを想像し、ひとつの物語として作品化したものです。また自宅に咲いた花の写真素材とした《パーン》は、右下の百合の花からたくさんの花が飛び出すようすを描いています。

Magarikaji specializes in creating collage works using a variety of materials and photographs, and has actively incorporated handicraft techniques such as knitting to create three-dimensional, narrative works. "Play" is a piece of work that imagines the moon and the sun playing together as a story. In addition, "Paan", which was based on a photograph of flowers blooming in her home, depicts many flowers popping out from a lily flower in the lower right corner.

다양한 소재와 사진을 이용한 콜라주 작품의 제작을 자랑으로 하고, 뜨개질 등 수예의 기법도 적극적으로 도입해, 입체적이고 이야기성이 있는 작품을 계속 만들어 왔습니다. 《놀이》는 달과 태양이 놀도록 하는 것을 상상해, 하나의 이야기로서 작품화한 것입니다. 또 자택에 피는 꽃의 사진을 소재로 한《판》은, 우하의 백합의 꽃으로부터 많은 꽃이 튀어나오도록(듯이)를 그리고 있습니다.

松本 寛庸
Matsumoto Hironobu
1991年 山鹿市



平成から令和へと時代が変わり、先の大戦を経験した人々は次々と亡くなり、新たな時代を担う人々が続々と生まれてくるなど、世代交代が急速に進む社会に危機感を覚えて制作したのが《時代の子》です。左の21歳当時の「じいちゃん」と右の21歳になった「ひまご」が93年の時を超えて巡り会った瞬間を描いています。「じいちゃん」と「ひまご」が上下逆さなのは、映画「天気の子」の主人公とヒロインが向かい合ったまま逆さに描かれたポスターに触発されたからだそうです。「日本博を契機とした障害者の文化芸術フェスティバル in 九州ブロック」(2020)長崎県美術館、「あるがままのアート -人知れず表現し続ける者たち-」(2020)東京藝術大学大学美術館本館、「VOCA展 2021 現代美術の展望・新しい平面の作家たち」(2021)上野の森美術館、アール・ブリュット 2023 巡回展「ディア ストーリーズ ものがたり、かたりあう」(2023)東京都渋谷公園通りギャラリーなどに出品。

As the era changes from the Heisei era to the Reiwa era, people who experienced the World War II have been passing way one after another, and also people who will lead a new era have born successively. Matsumoto's work of "Child of the Times" was created based on the a sense of crisis in a society where generational change is rapidly progressing. It depicts the moment when the 21-year-old "Grandpa" on the left and the 21-year-old "Himago(Grand-child)" on the right met across 93 years' interval. The reason why "Grandpa" and "Himago(Grand-child)" are upside down is that he apparently inspired by the poster of the movie "Weathering With You" in which the hero and heroine were depicted facing each other upside down. His works were exhibited at the museums as follows:- "Culture and Arts Festival for People with Disabilities in Kyushu Block in the wake of Japan Expo" (2020) Nagasaki Prefectural Museum of Art- "Art as it is - Those who continue to express themselves in secret" (2020) Tokyo University of the Arts University Art Museum Main Building- "Exhibited at VOCA Exhibition 2021: Prospects of Contemporary Art: Artists of a New Plane" (2021) Ueno Royal Museum- Art Brut 2023 Traveling Exhibition "Dear Stories: Stories and Stories" (2023) Shibuya Koen-dori Gallery, Tokyo, etc.

헤이세이에서 레이와로 시대가 바뀌어, 앞의 대전을 경험한 사람들은 잇달아 죽어, 새로운 시대를 담당하는 사람들이 잇달아 태어나는 등, 세대 교체가 급속히 진행되는 사회에 위기감을 기억해 제작 한 것이 《시대의 아이》입니다. 왼쪽의 21 세 당시의 「할아버지」와 오른쪽의 21 세가 된 「히마고」가 93 년의 때를 넘어 만난 순간을 그리고 있습니다. 「할아버지」와 「히마고」가 상하 거꾸로 된 것은, 영화 「날씨의 아이」의 주인공과 히로인이 마주한 채 거꾸로 그려진 포스터에 촉발되었기 때문이라고 합니다. 「일본박을 계기로 한 장애인의 문화예술 페스티벌 in 규슈 블록」(2020) 나가사키현 미술관, 「있는 그대로의 아트-사람 모르고 계속 표현하는 자들-」(2020) 도쿄 예술 대학 대학 미술관 본관, 「VOCA 전 2021 현대 미술의 전망-새로운 평면의 작가들」(2021) 우에노의 모리 미술관, 아르-브뤼트 2023 순회전 "디어 스토리즈 모노가타리, 카타아이"(2023) 도쿄도 시부야 공원 거리 갤러리 등에 출품.

牧野 慎也
Makino Shinya
2001年 菊池市



日中を過ごす施設での就労時間に目にする身近な題材の特徴をしっかりと捉えてデフォルメし、画面いっぱいに引き寄せてユーモラスに描いています。よく考えられた配色は、見る者を主題へと引き込む力強さも備えており、見て描くことの楽しさなど新たな気づきをもたらしてくれそうです。

Makino carefully captures the characteristics of familiar subjects that he sees during spending time at the workplace and he deform and draw them humorously to fill the screen. A well-thought-out color scheme has the power to lead the viewer into the subject matter, raising new awareness to the joy of looking and drawing.

낮 시간을 보내는 시설에서의 취업 시간에 눈에 띄는 친밀한 소재의 특징을 제대로 파악해 디포르메 해, 화면 가득에 끌어 들여 유머러스하게 그리고 있습니다. 자주(잘) 생각된 배색은, 보는 사람을 주제로 끌어들이는 힘도 갖추고 있어, 보고 그리는 것의 즐거움 등 새로운 눈치채를 가져옵니다.

森山 茂
Moriyama Shigeru
1962年 熊本市



Moriyama repeatedly draws a melancholy-looking middle-aged man, nicknamed "Uncle Bulbul" among the staff of the facility he commutes and unidentified creatures. He only spontaneously draws this "Uncle Bulbul". This humorous "Uncle Bulbul" is popular outside the facility and has even been featured on the jacket of CDs.

施設職員の間では「ブルブルおじさん」と呼ばれている物憂いそうな中年男性や正体不明の生き物がまるでスタンプで押したように繰り返し並べて描かれています。作家が自発的に描くのはこの「ブルブルおじさん」だけだそうです。このユーモラスな「ブルブルおじさん」は施設外でも人気があり、CDのジャケットに採用されたこともあります。

시설 직원들 사이에서는 '불불 아저씨'라고 불리는 끔찍한 중년 남성과 정체 불명의 생물이 마치 스탬프로 누른 것처럼 반복해서 나란히 그려져 있습니다만, 작가가 자발적으로 그리는 것은 이 「불불아저씨」뿐이라고 합니다. 이 유머러스한 「불불 아저씨」는 시설외에서도 인기가 있어, CD의 재킷에 채용된 적도 있습니다.

山品 聡美
Yamashina Satomi
1967年 山鹿市



Yamashina repeatedly writes characters that interest her, such as names of places and people's names, on sketchbooks and on copying papers using ballpoint pens. The characters that she disassembles the parts of kanji-characters and reconstructs them with her unique sensibilities go beyond the original meaning as words and express full of plastic beauty. The characters she writes are called "Yamashina Font" among the staff of the facility she uses and some people create their business cards with the letters written by the artist.

スケッチブックやコピー用紙にボールペンなどを使って地名や人名など自身が関心のある文字を繰り返し書いています。つくりとへんなど漢字のパーツを解体して独自の感性で再構成した文字はもはや言葉としての意味を超越し造形的な美しさを湛えています。施設職員らの間では「山品フォント」とも呼ばれ、作家が書いた文字で名刺を作成している人もいます。

스케치북이나 카피 용지에 볼펜등을 사용해 지명이나 인명 등 자신이 관심이 있는 문자를 반복해서 쓰고 있습니다. 구조와 헨 등 한자의 파트를 해체해 독자적인 감성으로 재구성한 문자는 더 이상 말로서의 의미를 초월해 조형적인 아름다움을 빛고 있습니다. 시설 직원들 사이에서는 「산품 폰트」라고도 불리며, 작가가 쓴 문자로 명함을 작성하고 있는 사람도 있습니다.

吉村 優音
Yoshimura Yuuto
2011年 熊本市



Yoshimura's unique compositions bring a sense of realism to his works. In "Mom's Favorite Person Keisuke Kuwata" which depicts his mother's favorite artist, you can feel the passion of the singer as well as the heartwarming relationship of mother and child. "Robota-ken" is the art of dog shaped characters combined with used mini-blocks and the dogs painted by color pens, and finally those dogs are put in a single frame.

独特な構図が作品に臨場感をもたらしています。母親が大好きなアーティストを描いた《ママのだいすきな人 桑田佳祐さん》からは、歌手の熱量とともに普通の微笑ましい母子の姿が伝わってきます。《ロボ太けん》は使い古したミニブロックで作った犬と、その犬をカラーペンで描いたスケッチをひとつの額に納めた作品です。

독특한 구도가 작품에 현장감을 가져다줍니다. 어머니가 좋아하는 아티스트를 그린《엄마의 맛있는 사람 쿠와타카 유우씨》에서는, 가수의 열량과 함께 평소의 미소짓는 모자의 모습이 전해져 옵니다. 《로보타켄》은 낡은 미니 블록으로 만든 개와 그 개를 컬러 펜으로 그린 스케치를 하나의 이마에 담은 작품입니다.

渡邊 義紘
Watanabe Yoshihiro
1989年 熊本市



Watanabe creates the shapes of various animals by cutting them out in a single stroke using only scissors without using a cutter.

"Origami", in which animals and other objects are made by folding sawtooth oak leaves like origami, is widely known as one of the artist's masterpieces. All of these pieces are full of originality, made with delicate and precise handwork and his outstanding power of expression. His works were exhibited as follows:

- Hokuriku Crafts Exhibition "GO FOR KOGEI" (2023) Nakajima Lock Square + Control Room
- "HEY! CÉRAMIQUE.S" (2023) Al Saint-Pierre Museum
- National Cultural Festival Ishikawa Hyakumangoku Cultural Festival "Satoyama Satoumi Kirie Festival" (2023) Wajima Civic Cultural Center
- "NAKANO Town Entire Art Museum" (2023) Nakano ZERO West Wing Art Gallery, etc.

さまざまな動物の形をカッターを使わずにはさみだけで一筆書きのように切り出して制作しています。クヌギの葉を折り紙のように折って動物などを作る「折り葉」は作家の代表作のひとつとして広く知られています。いずれも繊細で緻密な手作業と卓越した表現力によるオリジナリティあふれる作品です。北陸工芸展「GO FOR KOGEI」(2023年) 中島閘門広場+操作室、「HEY! CÉRAMIQUE.S」(2023) アル・サンピエール美術館、国民文化祭いしかわ百万石文化祭「里山里海 きりえの祭典」(2023) 輪島市民文化会館、「NAKANO 街中まると美術館」(2023) なかの ZERO 西館美術ギャラリーなどに出品。

다양한 동물의 모양을 커터를 사용하지 않고 가위만으로도 한 필기처럼 잘라 제작하고 있습니다. 쿠누기 잎을 종이 접기처럼 접어 동물 등을 만드는 "접기 잎"은 작가의 대표작 중 하나로 널리 알려져 있습니다. 모두 섬세하고 치밀한 수작업과 탁월한 표현력에 의한 독창성 넘치는 작품입니다. 호쿠리쿠 공예전 「GO FOR KOGEI」(2023년) 나카지마 료몬 광장 + 조각실, 「HEY! CÉRAMIQUE.S」(2023) 알·산피에르 미술관, 국민 문화제 "(2023) 와지마 시민 문화 회관,"NAKANO 거리 중 통째로 미술관"(2023) 나카의 ZERO 서관 미술 갤러리 등에 출품.

韓国作家
友情展示の経緯

In November 2022, the Asia-Pacific Art Festival for People with Intellectual and Developmental Disabilities was held at the request of DPI (Disabled Persons International) Korea, and works from various countries were exhibited at the National Assembly Building of Korea. Midori Hirano, chairperson of the DPI Japan Conference, requested us to participate in the conference, and we exhibited "Excellent Star" by Hironobu Matsumoto (Yamaga City), which received the Encouragement Award.

Due to this connection, DPI Korea requested that Korean artists also participate in this year's exhibition in Kumamoto, and the works of three artists recommended by Korean support group TOWAJI will be included in this exhibition as a "friendship exhibition." It will be exhibited at the venue.

2022年11月 DPI (障害者インターナショナル) 韓国の呼びかけのもと、アジア太平洋知的障害・発達障害者芸術祭が開催され、各国から出展された作品が韓国の国会議事堂に展示されました。DPI 日本会議の平野みどり議長から、本会へ参加要請があり、松本寛庸氏 (山鹿市) の『エクセレントスター』を出展し、奨励賞を受賞しました。

このご縁から、本年度熊本の出展に韓国の作家も参加したいとの DPI 韓国からの相談により、韓国の支援団体 TOWAJI 推薦の作家の中から3名の作品を「友情展示」として、本出展会場にて展示することになりました。

2022년 11월 DPI(장애인 인터내셔널) 한국의 호소 아래 아시아 태평양 지적장애·발달장애인 예술제가 개최되어 각국에서 출전된 작품이 한국의 국회의사당에 전시되었습니다. DPI 일본 회의의 히라노 미도리 의장으로부터, 본회에 참가 요청이 있어, 마츠모토 히로사키씨(야마가시)의 「엑셀런트 스타」를 출전해, 장려상을 수상했습니다.

이 인연에서, 금년도 구마모토의 전람회에 한국의 작가도 참가하고 싶다는 DPI 한국으로부터의 상담에 의해, 한국의 지원 단체 TOWAJI 추천의 작가 중에서 3명의 작품을 「우정 전시」로서, 본 전람 회장에서 전시하게 되었습니다.

강원진
Kang Wonjin
カン・ウォンジン



Kang Wonjin, artist, was born in Seoul. He showed autistic behavior when he was three years old. He subsequently graduated from ordinary high school and spent his twenties working in various workplaces. Expressing his interests by drawing has been a daily routine throughout his childhood. So, he has been exposed to a variety of art educations, however without any outstanding results. In early 2023, he began to engage in art activities of colors through Towa-Temple seriously. This year, with his experience to win in public competitions, he started to work in a corporate, and challenges studying whenever necessary. In his teenage, he once told he was a female in the previous life. He shows his interest in woman through paintings, and in real life, he is interested in environment, energy, and electricity. This time, it's his third visit to Japan since the last tour with his family when he was an elementary school student. He received training for independent living after he was grown up, and is living alone. Now, it has become a daily routine to draw with friends from Towa-Temple.

作家カン・ウォン진은 서울에서 태어났습니다. 생후 3歳以降から自閉的傾向がありました。その後、一般学校で高校を卒業し、いくつかの職場で簡単な仕事をして 20代を過ごしました。絵を描きながら興味のあるものを表現することは、子供時代の日常でした。

これまで美術教育に多様に触れましたが進展がなく、2023年初めから図と知を通じて色彩を使用する美術活動を本格的に始めることになりました。今年の公募展に当選される経験とともに企業体に就職するようになり、助けが必要ですが学業にも挑戦しています。

10代の頃に、本人が前世に女性だったと話をしたことがあります。女性への関心を、絵を通して示しており、現実的には環境やエネルギー・電気分野に関心を持っています。

小学校時代の家族と一緒に日本旅行をした後、今回の訪問が3回目です。大人になった後、独立生活について教育を受け、現在一人暮らしをしています。現在は図と知の友達と一緒に絵を描くことが日常になっています。

강원진 작가는 서울에서 출생했습니다. 생후 3세 이후부터 자폐적 행동을 보였습니다. 이후 일반학교에서 고등학교를 졸업하고 여러 작업장에서 단순한 일을 하며 20대를 보냈습니다.

그림을 그리면서 관심있는 것을 표현하는 것은 어린 시절의 일상이었습니다.

그동안 미술교육을 다양하게 접했지만 진전이 없다가 2023년 초부터 도와지(圖와知)를 통해 색채를 사용하는 미술활동을 본격적으로 시작하게 되었습니다.

올해 공모전에 당선되는 경험과 함께 기업체에 취업하게 되었고 도움이 필요한 한 학업에도 도전하고 있습니다.

10대 시절에 본인이 전생에 여자였을거라는 이야기를 한 적이 있는데 여성에 대한 관심을 그림을 통해 보여주고 있으며 현실적으로는 환경이나 에너지 전기분야에 관심을 가지고 있습니다. 초등학교 시절 가족과 함께 일본 여행을 한 이후 이번 방문이 세 번째입니다. 성인이 된 후 독립생활에 대한 교육을 받고 현재 혼자 생활하고 있습니다. 지금은 도와지(圖와知)의 친구들과 함께 그림을 그리는 일이 일상이 되고 있습니다.

천민준
Chon Minjun
チョン・ミンジュン



旅行に通うときは、カラーリングブックと色鉛筆を必ず持って行きます。旅行先の書店に立ち寄ってカラーリングブックを買うのが私の趣味です。みんな自分が見えるように、感じるように表現します。同じ風景であっても、私が選んだ色で新しく変化する様子を見るのに楽しさを感じます。私は海の中の魚、森の中の昆虫、花の上の蝶、翼の鳥などの動物を描くのがとても好きです。華やかな魚や節が多く分かれた昆虫を描くときは本物の神様が出ます。このように描いてみると、幼い頃によく行った動物園、大きな水槽が素敵だった水族館、水をたくさん飲んで難しかったシュノーケリング、寝る前にお母さんが読んでくれたおとぎ話が思い出されます。私の絵をご覧の方も、私のように微笑んでいたその時、幸せな思い出を思い出すその時間に、しばらく滞在してほしいと思います。

When I travel, I always carry a coloring book and colored pencils. My hobby is to stop by bookstores to buy coloring books while traveling. People express what they see and feel. Even if the scenery I see is the same as other people, I enjoy seeing the difference in colors of my own choice. I love drawing lives such as fish in the sea, insects in the forest, butterflies on flowers, and birds flapping their wings. I am ecstatic when I draw colorful fish, or insects with many segments. When I draw my favorite lives, I remember zoo I often visited when I was young, the aquarium with a nice big tank, snorkeling which was difficult because I drank too much of water, and the storybook my mother read to me before bedtime. I hope that people who look at my painting will remember the moments they were smiling, and stay in the happy memories just like I did in drawing.

여행을 다닐 때 컬러링북과 색연필을 꼭 가지고 다닙니다. 여행지의 서점에 들러 컬러링북을 사는 게 제 취미입니다. 사람들은 저의 자기가 보는 대로 자기가 느끼는 대로 표현합니다. 같은 풍경이어도 내가 고른 색으로 새롭게 변화하는 모습을 보는 것에 즐거움을 느낍니다. 저는 바다 속 물고기, 숲 속 곤충, 꽃 위에 나비, 날개짓하는 새 등 동물을 그릴 때가 참 좋습니다. 화려한 물고기나 마디가 많이 나누어진 곤충을 그릴 때는 진짜 신이 납니다. 이렇게 그리다 보면 어렸을 때 자주 갔던 동물원, 큰 수조가 멋졌던 수족관, 물 잔뜩 먹어 힘들었던 스노클링, 자기 전에 엄마가 읽어주셨던 동화책이 생각납니다. 제 그림을 보시는 분들도 저처럼 미소 짓게 했던 그 때, 행복했던 추억을 떠올리는 그 시간에 잠시 머무르셨으면 합니다.

박성호
Park Sungho
박·손호



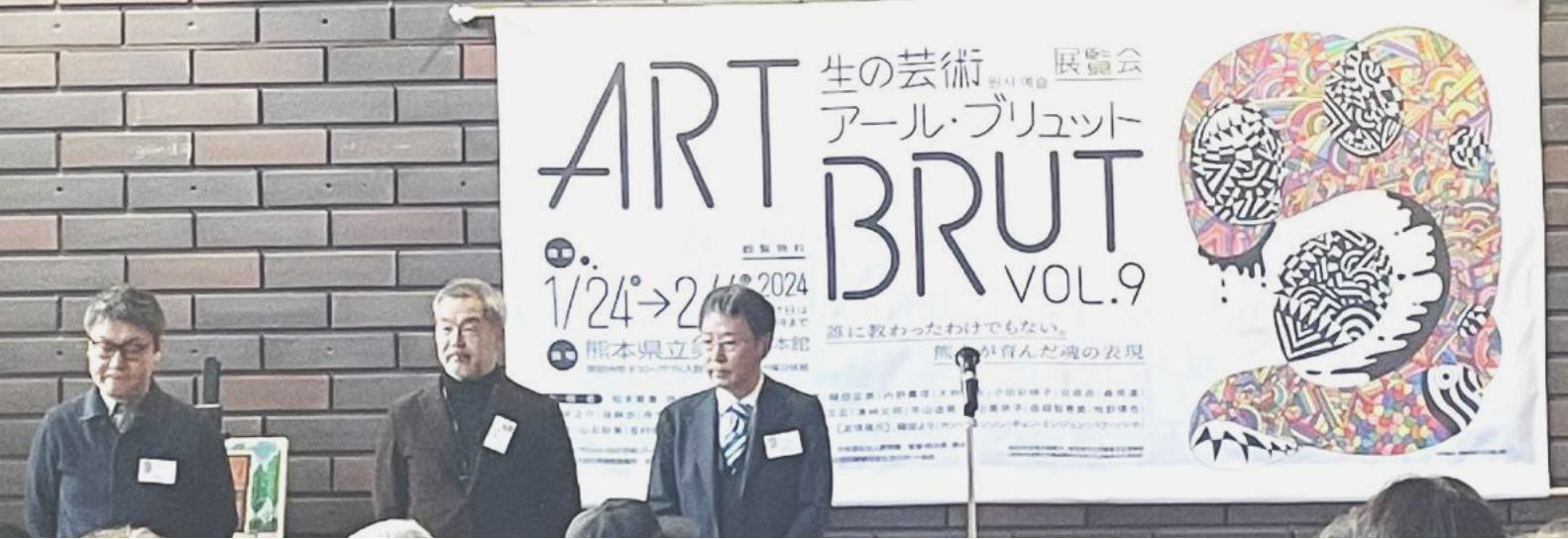
私は言葉でコミュニケーションは難しいが、絵と色で世界とコミュニケーションをとる。私は主に「私の部屋」をテーマに私の心を表現します。私の部屋は私が最もよく知るので最もよく描くことができる。一箇所にいつも静かに置かれているおなじみの家具と小物は私の友人でも、自分自身でもある。規格化された長方形の構図を抜け、円形や楕円など様々な画幅で画面を構成して私の世界を表現することもある。私の2番目のテーマは「木」シリーズです。様々な形の木を描くのはいつも楽しいです。私の部屋に貸される私の家のリビングルームに木の植木鉢がいつも色々ある。小道具やおなじみの家具と同じくらい私の木は私の人生の一部として私と一緒に成長します。木の色を探検し、木に着色する仕事は私の日常です。単純化して表現した私の木に幾何学模様を加え、自分だけの独特の木を完成します。

Although it is difficult for me to communicate using words, I communicate with the world through pictures and colors. I mainly express my feelings focusing the theme of 'My Room'. I can draw my room best because I know it best of all. Familiar furniture and props that are always placed in order are both my friends and myself. I sometimes express my world in other than standardized rectangular composition, by composing the work with shapes such as circles and ovals. My second theme is 'Trees' series. It is always fun to draw trees of different shapes. The living room of my house, rented to me, always has several flower pots. Just like small props and familiar furniture, my trees grow with me as a part of my life. Exploring the horizon of colors for trees, and adding colors to it is my daily routine. By adding geometric patterns to my simplified tree figures, I create unique trees just of myself.

나는 말로 소통은 어렵지만 그림과 색으로 세상과 소통을 한다. 나는 주로 '나의 방'을 주제로 내 마음을 표현한다. 나의 방은 내가 가장 잘 알기에 제일 잘 그릴 수 있다. 한 곳에 늘 가만히 놓여 있는 친숙한 가구와 소품은 나의 친구이기도, 내 자신이기도 하다. 규격화된 직사각형 구도를 벗어나 원형과 타원 등 다양한 화폭으로 화면을 구성하여 나의 세계를 표현하기도 한다. 나의 두 번째 주제는 '나무' 시리즈다. 다양한 모양의 나무 그리는 것은 항상 즐겁다. 나의 방으로 대변되는 나의 집 거실에는 항상 나무 화분이 여러 그루씩 있다. 소품들과 친숙한 가구만큼이나 나의 나무들은 내 삶의 일부분으로 나와 함께 성장한다. 나무의 색을 탐구하고 나무에 색을 입히는 작업은 나의 일상이다. 단순화해서 표현한 나의 나무에 기하학적 패턴을 더해 나만의 독특한 나무를 완성한다.



生の芸術 Art Brut 展覧会 vol.9 展覧会来館者の感想



- まずフライヤーのデザインがいい。「no art no life」というNHKの番組を見ており、このようなアートに大変興味があった。作者の筆の動きや考え方を想像するのが面白かった。
- 独特な世界観に圧倒されました。それぞれの想いを感じながら作品に触れることができとても良い時間でした。
- 豊かな創造性に感動しました。才能あふれた作品ばかりで、主催していただき、拝見することができよかったです。ありがとうございました。
- はじめてアール・ブリュットを見学させて頂きました。熊本には、こんなに沢山の想像力、表現力をもった才能ある方がいらっしゃる事に驚きました。
- 何時も御招待ありがとうございます。たくさんの作家の方がおられ驚きました、作品も楽しかったです、感心しました。
- 障害のある方の芸術活動に興味があり、長崎より今回観覧させていただきました。作品そのものの素敵ですが、展示方法等参考になりました。また機会があれば見に来たいと思います。
- 作家さんおひとりお一人の生きるパワーを観ることが出来、とても満足する展覧会でした。韓国の作家さんも良かったです。





○お一人ずつ自分の個性ある作品ですごく感動しました。様々な描き方、絵のタッチ、構図など勉強になりました。

○年々作品も増え、見ごたえのある作品展になり感動しています。多くの作家さんに何か励みになる御礼ができればいいと思います。

○どの作品もすばらしかったです。かわいらしい作品も多数あり心がウキウキしました。応援しています。

○個性のぶつかりあいといった感じで素晴らしい。刺激を受けました！素敵な作品ばかり。これからも楽しみにしています。

○皆さんの日常で思われていることや考えられていることを表現されていることにとても感銘を受けました。これからのご活躍をお祈りしております。ありがとうございました。

○集中力が素晴らしい。子供たちに囲碁を教えているが、この集中力があれば、障害があっても囲碁で強くてなれそう。

○すごい作品ばかりでした。それを見出す人がいるから展示もできていると思います。ありがとうございました。





○自分に自分を表現で来ていて素晴らしいと思います。それぞれの感性にびっくりしました。個性が伸ばせる好きなことが自由にできる環境にいらっしゃることが幸せですね。

○作品のレベルが高い！感動しました！展示の仕方も素敵で勉強になります。

○毎年来たいと思いながらようやく来れました。（長崎市より）熊本はアール・ブリュット作家さんが多く、取組も素晴らしいです。期待以上の展覧会でした。長崎のアール・ブリュット活動も頑張ろうと思いました。

○初めて鑑賞したが、いずれも素晴らしい作品に感動しました。小雨の中でしたが、来て本当によかったです。もっと多くの人にも知ってほしいです。これで無料はもったいないです。ありがとうございました。

○初めてArtBrutの展示を見に来たので、とてもびっくりしました。色々な方の絵があって数多くて見応えがありました。どんなことを考えながら描いたのかが気になって立ち止まることも多かったです。私も自分自身の表現をしたくなりました。また機会があったら見に来たいと思いました。

○「生の芸術」最近になり、やっと「生」の本当の意味が分かったような気がします。最終日に「生」で作家さんにもお逢いできて良き日となりましたことに感謝します。



本年度1月開催の「生の芸術 Art Brut 展覧会 vol.9」の会場最後に、担当キュレーター楠本智郎氏の「おわりに」を掲示しました。今回、楠本氏の許可を得て、その全文を本報告書に掲載させていただきます。

おわりに

本展覧会では、アール・ブリュット パートナース熊本に登録されている作家の情報をもとに調査を重ねたうえで、24人の作家を選出し、約160点の作品を展示しています。これまでと同様に黙々と制作に勤しむ作家もいれば、新たなアイデアの導入に意欲的な作家もいますが、共通しているのは創作活動が平穏な日々の暮らしを支える大切な時間となっていることです。

「アール・ブリュット」は、フランスの画家ジャン・デュビュッフェ(1901-1985)によって提唱された概念で、正規の美術教育を受けていない人が生み出した独創的な表現を意味し、「生きの芸術」とも訳されます。あらゆる人々が参加可能なインクルーシブ社会の構築に向けた活動が盛んとなった近年では、「アール・ブリュット」も以前のように社会の周縁にて、ややもすると見過ごされるような存在ではなく、さまざまな人たちとの関わりの中で生まれる表現活動の一環として注目され、評価されるようになりました。現在は障害のある人による造形表現を指すことが多くなっている「アール・ブリュット」ですが、西洋美術の価値観にとらわれず、作為のない個性や自発性に基づいた創意に価値を見いだそうとした当初の根本的理念に立ち返れば、障害の有無にかかわらず、あらゆる人々をつなぐ架け橋ともなるはずです。

今年は新たに韓国の作家による友情展示も実現しました。いよいよ10周年を迎える来年の「生の芸術 Art Brut 展覧会」においては、これまでの蓄積を生かすとともに柔軟な発想をもって、さらに多くの方々の共感を得られる展覧会となるよう努めてゆきたいと思います。

最後ではありますが、作家をはじめ、ご家族や施設の方々、会場を提供して下さった熊本県立美術館、また作品の調査・選定において小職の要望に答えるべく奔走して下さったアール・ブリュットパートナーズ熊本など本展覧会の開催にあたりご尽力いただいたすべての方々に深く感謝申し上げます。

生の芸術 Art Brut 展覧会 Vol.9 キュレーター 楠本智郎

アール・ブリュット パートナース熊本 理事・役員名簿

	役職名	氏名	所属団体及び役職
1	会長	西島 喜義	熊本市 元副市長 熊本市シルバー人材センター 理事長
2	副会長	安達 憲政	熊本日日新聞社 前編集員 熊本大学文学部非常勤講師
3	副会長	林田 直志	公益財団法人 永青文庫 常務理事
4	理事	栗崎 英雄	熊本県知的障がい者施設協会 前会長 (第二つつじヶ丘学園)
5	理事	平野みどり	DPI(障害者インターナショナル)日本会議 議長 (ヒューマンネットワーク 熊本)
6	理事 事務局長	三浦 貴子	熊本県身体障害児者施設協議会 会長 (愛隣館)
7	監事	川村 隼秋	熊本県手をつなぐ育成会 会長
8	監事	塘林 敬規	熊本市社会福祉施設連合会 事務局長 (大江学園)
9	アドバイザー	藏座 江美	一般社団法人ヒューマンライツふくおか 理事 元 熊本市現代美術館 主任学芸員
10	アドバイザー	岩下 勉	熊本日日新聞社デジタル編集部 部長
11	アドバイザー	真武真喜子	元 北九州市立美術館 学芸員 インディペンデントキュレーター
12	コーディネーター	西 恵美	熊本市手をつなぐ育成会 会長
13	コーディネーター	土井 章平	野々島学園 理事長

社会福祉法人愛隣園 事務局

	役割名	氏名	所属
1	理事長	三浦 一水	社会福祉法人 愛隣園 理事長
2	事務局長	三浦 貴子	障害者支援施設愛隣館 総合施設長
3	事務局	田中 裕一	障害者支援施設愛隣館 副施設長
4	事務局	富田 芳博	障害者支援施設愛隣館 事務長
5	事務局	納富 久	障害者支援施設愛隣館 総務部副主任
6	事務局	堀田 直美	障害者支援施設愛隣館 総務部副主任
7	事務局	久武 康博	障害者支援施設愛隣館 地域福祉部副主任
8	事務局	松本 薫	障害者支援施設愛隣館 地域福祉部
9	事務局	清水誠一郎	障害者支援施設愛隣館 生活サービス部
10	事務局	三角 淳子	障害者支援施設愛隣館 地域福祉部
11	事務局	北谷知明	障害者支援施設愛隣館 地域福祉部

令和5年度厚生労働省障害者芸術文化活動普及支援事業
(熊本県障がい者芸術文化活動普及支援事業)報告書

(発行元)

社会福祉法人 愛隣園 障害者支援施設 愛隣館
《アール・ブリュット パートナース熊本》

〒861-0551 熊本県山鹿市津留 2022 <http://aileans.com/saca/>
Tel:0968-43-2771 Fax:0968-43-2793 Mail:ailinkan@magma.jp

(編集責任者)

三浦貴子

(企画・校正)

納富久 堀田直美 久武康博 松本薫

(印刷・製本)

株式会社トライ

(表紙)

中山颯良 / ザリガニ

(助成)

令和5年度厚生労働省障害者芸術文化活動普及支援事業
(熊本県障がい者芸術文化活動普及支援事業)